

1. 調査報告概要表

作成日 平成22年4月18日

【評価実施概要】

事業所番号	1072700394
法人名	特定非営利活動法人 旭会
事業所名	グループホーム 月夜野宿
所在地	群馬県みなかみ町下牧1128-3 (電話) 0278-62-1101

評価機関名	サービス評価センター はあとらんど
所在地	群馬県前橋市大渡町 1-10-7 群馬県公社総合ビル5階
訪問調査日	平成 22年 1月26日

【情報提供票より】(21年12月24日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 14年 8月 1日
ユニット数	1 ユニット 利用定員数計 9 人
職員数	14 名 常勤専任6人, 非常勤 8 人, 常勤換算 5.4人

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り 2階建て 1階
------	------------------

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	45,000 円	その他の経費(月額)	25,000 円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(200,000円) <small>返去時現状回復費用除く</small>	有りの場合 償却の有無	有(無)	
食材料費	朝食	450 円	昼食	450 円
	夕食	400 円	おやつ	円
1日 1,300 円				

(4) 利用者の概要(12月1日現在)

利用者人数	9名	男性	0名	女性	9名
要介護1	0名	要介護2	2名		
要介護3	3名	要介護4	2名		
要介護5	2名	要支援2	0名		
年齢	平均 81.4 歳	最低	50 歳	最高	97 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	加瀬医院、竹内医院、関歯科医院、沼田脳神経外科病院、沼田クリニック、ぬまた歯科口腔外科
---------	---------------------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

利用者の年齢層が幅広く介護度も高く、一人ひとりの状態に合わせた支援が必要であり、実践されている。入浴は時間や回数にとらわれない支援がされている。近くにある菜園で取れた野菜は利用者と職員で下ごしらえをして、食卓に上がっている。自立が理念に謳われており、利用者の出来るところを見つけ、支えあい見守りの支援をしている。このホームは国道に面した車の多い危険な面と川の流れやせせらぎの音、あふれる緑など自然豊かなさわやかな面を併せ持った施設である。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>現状に即した介護計画の見直しでは毎月の検討はされているがモニタリングとしての記録が無く改善されていない。鍵を掛けないケアに関しては運営推進会議でも取り上げられ家族に説明されている。家族から安全を考えた施錠に関する願い書が提出され、施錠されている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>運営者は外部評価について職員に説明しており、コピーして配布し、職員から意見を吸い上げている。吸い上げた意見を管理者が取りまとめ記入した。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議には地区区長、地域包括支援センター職員、民生委員、地区老人会会長、利用者家族代表などが参加している。外部評価結果の検討がされている。参加者との情報交換が行われ、得られた情報で利用者は地域に出掛けて行事などに参加している。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>家族より外部評価項目の「鍵を掛けないケア」についての「願い書(鍵をかけて安全を確保してほしい)」がホームに提出されている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>運営者は地域との協働を考えている。地域と協力して認知症の啓蒙活動をしたいと考えている。老人会、地域、保育園などとの交流が来ている。町の高齢者支援ネットワーク事業にも参加している。</p>

2. 調査報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	個人の尊厳と自立が謳われている理念は玄関やホールに掲示されている。管理者は理念の大切さを主に会議の時に職員に話している。		
	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者や主任は日常のケアに職員が慣れてしまうことによる弊害を感じた時は理念を振り返ってもらっている。日常生活の中でもアドバイス等を行い、理念の共有に努めている。		
2. 地域との支えあい					
	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	運営者、管理者は地域との付き合いを深めたいと思っている。地区で行われている公民館でのカラオケ大会には5人が参加して楽しんだ。11月の芸能・文化祭には作品を出展している。運営推進会議参加者からは地域の情報をもらい地域に出かけ、行事に参加している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	代表者・管理者は自己・外部評価の意義を理解し、昨年の外部評価の結果について職員と話し合い検討している。今回の自己評価については評価票のコピーを職員に配布し意見を聞き、管理者が取りまとめて記載した。		
	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度定期的開催されている。家族代表者が参加している。外部評価についてや高齢者支援ネットワークについてなどが報告されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営者、管理者は積極的に行政に出向いている。みなかみ町高齢者支援ネットワーク事業に参加している。地域ケアマネジャー会議にも出席している。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月1回請求書を郵送している。その時に介護記録のコピーや現況報告などしている。その他電話でも家族に報告をしている。また面会時にはデジタル画像をテレビに映して家族に普段の生活を見てもらっている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	管理者は家族からの意見を聞きたいと思っている。運営者は家族会の設立を家族に持ちかけたが、家族からはまだ必要ないのではとの返事があった。管理者は家族が面会時に意見を言いやすいような雰囲気を作り努力している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者、管理者は職員の異動は最小限にしたいと努力している。常勤職員の異動は無い。新しい職員が入職したときは利用者で紹介する。新入職員には経験者が日勤から教えて慣れてもらい。夜勤は2回経験者と同じ利用者へダメージを与えないように配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営者、管理者は職員に対して研修が大切な事を理解している。職員は研修に参加している。運営者と主任は職員に適した研修を選び参加してもらっている。管理者研修、実務者研修、身体拘束廃止などの研修に参加している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着型サービス連絡協議会に加入している。近隣のグループホームとの交流を行っている。またデイサービスへの見学や交換研修を行っている。研修の報告はミーティングの時に行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	家族と利用者に面接を行い納得して入所してもらっている。お試しの期間を設けるなどの工夫をしている。職員は声かけを多くしたり馴染みの関係を築く努力をしている。また家族に面会を多くしてもらい、居場所の工夫や、利用していた施設に情報をもらったりと、一人ひとりに合わせた工夫を行っている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者から花の栽培方法、農作物の作り方、食材の料理方法など教えてもらい感謝の言葉を添えている。人生の先輩として認知症になっても尊厳を守れる支援をする努力をしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人から直接聞いたり、家族からも面会時などで情報をもらっている。自分から言葉として表現できない利用者に対しては、表情や行動を観察して意向の把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人の意向は職員が確認して職員会議で共有している。家族の意向は書面で確認している。ミーティングの時間にケアマネジャーが作成し、家族の同意を得ている。確認印は職員が家族面会時にもらっている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月毎の見直しと随時見直しが行われている。毎月の検討はされているがモニタリングとしての記録は無い。	○	毎月の検討を踏まえたモニタリングにより計画の見直しができることを期待する。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通院支援や薬を取りに行ったり、美容院への送迎支援など柔軟な支援が行われている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前のかかりつけ医となっている。本人家族の希望により協力病院への変更も出来る。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に家族の終末期の希望を聞き話し合いを行い、「看取り同意書」で確認を取っている。状態の変化に応じて主治医を含めた話し合いをその都度行い、家族の希望を優先しながら方針を決定している。情報は職員間で共有されている。		
1. その人らしい暮らしの支援 (1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	運営者は利用者の呼び方など尊厳を傷つけないように職員に指導している。生活暦の中で名前で読んで欲しいと家族から希望がある場合は了解を得て希望に沿うようにしている。職員は入職時に守秘義務の誓約書を提出している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の今までの生活を大切にした支援がされている。食事の時間なども体調などにより変更したりして、一人ひとりの事情に合わせた支援がされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は家庭的なものが多い。メニューは利用者の希望が取り入れられている。近くに菜園があり収穫された野菜の下ごしらえに利用者も参加している。職員と一緒に食事をしている。後片付けにも利用者は出来る事をしている。誕生会やクリスマス会は食事会として楽しんでいる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合できめてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	曜日にとらわれない入浴の支援がされている。また時間も制約されていない。利用者は希望により入浴の支援を受けている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりに、モップ掛け、雑巾がけ、洗濯物たたみ、野菜の皮むき、洗濯干し、お盆ふきなどの役割がある。楽しみごとには、カルタ取り、書道、絵画、ドリル、塗り絵、体操があり、気晴らしとしてウッドデッキでの食事、誕生会、慰問などがある。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	玄関の反対側にデッキがあり雪の無い時期や天気の良い日には有効に利用して外気に触れる支援をしている。また散歩、りんご狩り、ドライブなどの外出支援を行っている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関は施錠されている。ホームからは段差がある玄関では利用者全員が転倒・転落の恐れがあることや、誰が入ってくるか分からない危険性もあり、それに伴うリスクがあることを各家族に説明している。職員も安全確保のための鍵の必要性を感じている。家族からは交通事情等で安全のため鍵を掛けてもらいたいとの申し出が出ている。	○	車の多い国道に面したホームであり、利用者の安全を考えた施錠という事情は理解できるが、利用者の尊厳を考え工夫をして開錠に向けた検討を再度お願いしたい。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に2回避難訓練を行っている。避難場所は決まっている。また隣家への協力依頼ができています。運営者は地域の人に協力依頼の働きかけを行っている。自動火災報知機の取り付け工事が完了している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者のチェック表に食事・水分の摂取量が記録がされている。食事は10の単位で記載されている。水分は1日の目安が1000cc～1500ccとなっている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	中央にテーブルがあり、それぞれの部屋から集えるようになっている。隣に炬燵のスペースがあり、そこからは川の音が聞こえ小鳥が飼われている。デッキに出れば緑があふれて川風とせせらぎが自然を体感させてくれる。厨房からの料理の出来上がり手順や香りが楽しめる。行事写真や利用者の作品なども飾られている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みのものを持ち込むことが出来る。家族の写真、作品、ベッド、箆笥、布団など個性ある居室となっている。		